

2026年(令和8年)6月20日(土曜日)



大館城の再現やまちづくりについて語る小笠原教授（桂城小）

桂城小 大館城をARで体験

先 輩 ようこそ
小笠原特任教授招く

大館市桂城小学校（加藤長 日、地域で活躍する卒業生を
幸校長、児童212人）は17 招く「ようこそ先輩」を同校

で開いた。秋田職業能力開発
短期大学校住居環境科の小笠
原吉張特任教授を講師に迎
え、AR（拡張現実）の技術
で再現された大館城を児童が
体験。当時に思いをはせると
ともに、これからのまちづく
りについて考えた。

小笠原教授は1975年同
校卒。生き方や職業観を学ぶ
目的で同校が毎年開くようこ
そ先輩の講師に招かれた。

全校児童を前に、「AR
（拡張の現実）の体験、焼失
した『大館城』を見てみまし
よう」と題して講話。大館城
や市の歴史、現在市が進めて
いる桂城公園（大館城本丸
跡）の修景整備について説明
した。

大館城は天守閣を持たない
平城で、戊辰戦争時の186
8年に落城、焼失した。「昔
の地図などは残っているが、
大きさは分からない。少ない
資料から当時の寸法を仮定
し、仮想空間に建物をつくる
システムで再現を目指した」

と述べた。代表児童がヘッド
セットを装着し、体育館内を
歩きながら、目の前に再現さ
れた城の外観や内部を確認し
た。

小笠原教授は公園整備が完
工予定の2028年度まで
に、現地でスマートフォンな
どを使って再現した城を見ら
れるよう制作を進めている。
「ここにこんな大きな建物が
あったんだと体感すること
で、大館について考え、どん
なまちにしたいか考える機会
にしてほしい」と目的を語っ
た。

最後にまちづくりやまち育
てについて触れた。「みんな
大館を住みよい、住み続けた
いまちにしたい。普段の生活
のちよっとした改善や工夫で
暮らしやすいまちになる。で
きることから少しずつ変えて
みてほしい」と呼びかけた。